

平成28年度 ふくしまの未来をひらく読書の力プロジェクト
読書活動支援者育成事業地区別研修実施報告書

(南会津) 教育事務所

1	実施期日	平成28年10月25日(火)	時間帯：10時15分～15時45分
2	会場	御蔵入交流館多目的ホール	
3	出席者数	総出席者数 計 52名 (男性 7名 女性 45名)	
	(内訳)	中学校教員 … 2名 保育士… 6名 読み聞かせボランティア… 30名 森の案内人 … 3名 子ども教室関係者 … 1名 図書サポートティーチャー… 1名 町教育委員会 … 2名 振興センター職員 … 1名 図書館職員 … 1名 福島県教育委員会社会教育課… 1名 南会津教育事務所… 4名	
4	研修会概要		
1	開会式 (10:15～10:30)	進行	社会教育主事兼指導主事 猪股 克亘
	(1) 開会		
	(2) 主催者あいさつ	福島県教育庁南会津教育事務所長	渡辺 惣吾
	(3) 日程説明・諸連絡		
2	講演 I (10:30～12:00)		
	(1) 講師紹介	南会津教育事務所次長兼社会教育課長	佐々木孝一
	(2) 講演	演題「教育の現場に今なぜ絵本が必要なのか」	
		講師	ハートランドこどものとも社 上野 良一 氏
	(3) 内容		
	1) 今なぜ 学校で絵本なのか？		
		<ul style="list-style-type: none"> よく読んでもらった子は、よく読むようになる 高学年に読み聞かせは不要になるような言語指導が望ましい 基本的には必要なくなるように教育する 愛情・温もりに根ざした「言葉による」「情緒的」な地域の力が読み聞かせボランティア 	
	2) 基本はクラシック絵本		
		<ul style="list-style-type: none"> クラシック絵本とは出版後40年以上 情緒性に富み、下劣ではないユーモアや示唆に富むもの 毎年、同じ学年、同じ時期に読むことでわかることがたくさんある 	
	3) 絵本は、今、伝承と挑戦の時		
		<ul style="list-style-type: none"> 身近な人による繰り返しが大切 家庭での読み聞かせが大事 家庭で補償されない子のために、他人の愛着者が必要 	
	4) 読み聞かせはエンターテインメントの提供ではない		
		<ul style="list-style-type: none"> 普通の人が普通に読めばよい ウケなくてよい。後からじんわりがよい 自分の好き嫌いではなく、幅広いレパートリーから選書する 	
	5) 「いちばん大切なことは、目に見えない」		
		<ul style="list-style-type: none"> 皆さんが届ける物語がいつか、一人の人生に大きな意味を持つかもしれない 目に見えなくても大切なことを、愛情と温もりを言葉に込めて、子ども達に届けてほしい 	
	(4) お礼のこトバ	主任社会教育主事	渡部 学

3 講演Ⅱ（13:00～14:30）

- (1) 講師紹介 南会津教育事務所次長兼社会教育課長 佐々木孝一
(2) 講演 演題 『読み聞かせ』コツとポイント～選書から実践まで～
講師 J P I C 読書アドバイザー 児玉ひろ美 氏

(3) 内容

- 1) 心身の成長に寄り添う本
 - ・年齢に応じた本がある
 - ・長く読まれた本は子どもの望む何かがある
- 2) 集団への読み聞かせの絵本
 - ・大きさと絵の見やすさを考慮する
 - ・写真は遠目がきかない
 - ・自分が好きな本が読み聞かせに合うとは限らない
- 3) 読むために
 - ・何冊か読み比べてみる
 - ・視点がずれると聞き手が集中できない
- 4) 読み聞かせのコツ
 - ・作り込まない
 - ・自然に読み聞かせるのがよい
- 5) 実際の読み聞かせ



- (4) お礼のこトバ 主任社会教育主事 渡部 学

4 実践発表（14:40～15:30）

- (1) 南会津町図書館活用推進員 湯田 千鶴 氏

- 1) おはなし会に関する掲示
 - ・図書館前の掲示
 - ・町の広報への掲載
 - ・チラシの配付
- 2) おはなし会の場の設定
 - ・子ども達が見やすい場
- 3) 絵本の読み聞かせに向けた準備
 - ・絵本を3、4冊程度選び、紙芝居や大型絵本を組み込んでいる



- (2) 田島小学校読書ボランティア 押部 嘉恵 氏

- 1) 活動時間 朝8:10～8:20と昼休み（13:20～14:40） 月1回
- 2) 事前の読み合わせ
 - ・ふさわしくない本を選んでいないか、個人の趣味に偏りすぎていないかをチェック
- 3) 終了後記録簿記入
 - ・子ども達の様子、先生への連絡、お願いを記入
- 4) 問題点
 - ・人員不足（高齢化、現PTAの参加が少ない）
 - ・勉強不足（同じような本を選ぶ、新しい本がわからない）
- 5) 思い
 - ・本の世界をそのまま伝える
 - ・本・読書に親しみを持つお手伝い
 - ・子ども達から元気をいただく（させていっているという気持ちを忘れない）
 - ・学校から要請があれば、できる限り続けていきたい



5 閉会 (15:35)

(1) 諸連絡 福島県教育庁社会教育課 社会教育主事 双里 義和

5 感想

【講演について】

- わかっていたようでわかっていなかったり、自信なくやっていたりしたことが多かったが、今回の研修では、これからの活動に生かせるものがたくさんありました。こういう研修会には参加したいので、また開催していただきたい。
- 今までの講師の先生も勉強になりましたが、今回はとても実践的ですぐに役立つ内容でした。二人の先生に共通していたのが、ロングセラー絵本、クラシック絵本でした。選書をする時に、とても参考になりました。
- いい本を選ぶことの大切さや読み聞かせの基本をしっかりと教えていただきました。
- 絵本は普通の人々が普通に読むことが大切だという言葉聞いて安心しました。
- 講師の方に一冊ずつ本を読んでもらったのが、心に残りました。
- 今日の講演を、子育て時代の若いお母さんに聞かせたかった。

【実践発表について】

- 読み聞かせをしている方の実践発表を聞いて、ボランティアのあるべき姿を再認識できました。
- 実践発表者は、それぞれの立場から謙虚に述べられていて、気持ちが伝わってきました。

【その他】

- 情報交換の時間がほしい。

6 成果・課題

アンケート結果

【講演Ⅰについて】

大いに参考になった 35名 ある程度参考になった 6名 参考にならなかった 0名

【講演Ⅱについて】

大いに参考になった 37名 ある程度参考になった 5名 参考にならなかった 0名

【実践発表について】

大いに参考になった 14名 ある程度参考になった 16名 参考にならなかった 0名

1 成果

- 現在、読み聞かせをしている方にもこれから読み聞かせを始めようと思っている方にとっても、読み聞かせの大切さや読み聞かせをする際に気をつけることについて再認識することができる研修会となった。
- 選書について悩んでいる読書ボランティアの方が多かったため、それぞれの講師の先生に選書について話していただいた。受講者のニーズをとらえた研修会を企画することにより参加者も多く、受講者の満足度も高かった。
- それぞれの講師の先生が実際に読み聞かせをしてくださったので、受講者は読み聞かせについてのイメージを膨らませることができた。
- 学校や保育所等にも参加を呼びかけたところ先生方にも受講していただくことができた。

2 課題

- 受講者の方から情報交換の場を設定してほしいという要望が出された。次の研修会では、ボランティアの方同士の情報交換の時間を確保していきたい。